

□「2016年3月期アナリスト・機関投資家向け決算説明会」議事録

日 時：2016年5月18日（水）15時～16時

場 所：ステーションコンファレンス東京

説明者：代表取締役社長執行役員 竹中宣雄

取締役常務執行役員 田中博臣

Q. 当期実績で粗利益率が低下している要因は。

A. 主な要因は当社の事業セグメントの中でも利益率の高い注文住宅の戸数が減少したため。注文住宅の利益率はほぼ横ばいで推移した。

Q. 注文住宅の1棟あたり平均受注単価が上がっている要因は。

A. 太陽光発電システムなどの環境関連設備を積極的に訴求した結果と捉えている。

Q. 今期の計画に消費税増税の影響はどの位盛り込まれているのか。

A. 今年度の計画については上期下期で多少様相が違ふ。上期については昨年度末に戻ってきた受注残から寄与するもののウエイトが高いとみている。下期については4Qから前年比プラスで戻ってきた受注が4、5月以降も続くとみており、増収増益という計画とした。消費税については消費増税に向けた状況に不確定要素が多く、また5→8%時に比べ、いわゆる駆け込みも見られないと考えている為、具体的には盛り込んでいない。

Q. 今年度に影響してくる構造改革の影響額は。

A. 構造改革によりスリム化した人員は営業や新しい業務にシフトしている。そのシフトした人員が、いつ頃からどの位収益をうむかは現時点では見通しにくいので、当期とほぼ同等とみている。

Q. 来年度の計画には構造改革の効果は盛り込まれるのか。

A. 来年度は新しい中期経営計画を発表させていただくが、構造改革の成果を具体的にどう盛り込み、利益率に反映させていけるかがポイントとなるので、気を引き締めて取り組んでいきたい。

Q. 専務の平田氏がトヨタホームの役員に就任する理由は。

A. 両社の連携をより強化するため。平田氏がトヨタホームの技術管掌役員となり、代わりに当社にはトヨタホームから生産、調達の管掌役員として吉松氏を迎えている。両社でよりシナジー効果が出るようにしていきたい。

以 上